

# おじさんの最後の鍋

新座市立池田小6年

野村 実由 11（新座市）

私の思い出の鍋。それは仲良くしていただいた父方のおじさんと食べた鍋だ。

一昨年の1月、私の誕生日に大阪に行った。父方の親戚との再会を楽しみにしていた私。祖父は1回会っただけで亡くなってしまうため、おじさんは私にとつて祖父のような存在だった。一緒に夕飯を食べることもなかった。食べたのが、特製のもつ鍋だった。子供でも食べやすいように、もつの代わりに豚が使われていた。極寒の1月に食べた鍋は特別な味がした。ピリツとした辛さにコクのあるスープはまさに絶品。みんなでおいおい食べると、よりいっそう温まる感じができた。

「ハッピーバースデー実由ちゃん」。突然響いたみんなの声。サプライズで私の誕生日を祝ってくれたことは、一生の思い出として心に深く刻んである。ところがその数日後、おじさんが突然発作で倒れ、数か月後に亡くなってしまった。最後みんなでぬくぬくと食べた鍋。大好きなおじさんの笑顔が見られたことは本当にうれしく思っている。